

しものせき Port News

平成29年1月
Vol.3

国土交通省九州地方整備局下関港湾事務所広報誌 しものせきポートニュース

Contents

特集 東アジア高速海上物流

東アジアの動向
ニーズが高まる国際複合一貫輸送
全国から貨物があつまる下関港

長州出島への寄港船の様子

下関港紹介③ 本港地区
みなと歴史探訪③ 臨港線跡



長州出島でのコンテナの荷役状況

1 特集 東アジア高速海上物流

下関港は本州最西端に位置し、東アジアに近接する地理的優位性から、韓国・中国等と西日本、さらに関西・関東とを結ぶ物流拠点として重要な役割を担っています。

今回は海上物流にスポットをあてた話題をお届けします。

東アジアの動向

港で取り扱われるコンテナ貨物は、近年、中国や韓国などの東アジアの港での取扱量が増加しています。

2015年（速報値）による世界の港湾別コンテナ取扱個数の上位10港において、上海や深圳、寧波-舟山などの中国の港が上位10港中7港も入っている他、韓国の釜山が6位に入っており、現在、東アジアの港で多くのコンテナ貨物が取扱われている状況にあります。

2015年（速報値）			
順位	港名	国名	千TEU
1	上海（シャンハイ）	中国	36,540
2	シンガポール	シンガポール	30,922
3	深圳（シンセン）	中国	24,200
4	寧波-舟山（ニンポー-シュウザン）	中国	20,620
5	香港（ホンコン）	中国	20,114
6	釜山（プサン）	韓国	19,450
7	青島（チンタオ）	中国	17,510
8	広州（コウシュウ）	中国	16,970
9	ドバイ	アラブ首長国連邦	15,592
10	天津（テンシン）	中国	14,100



出典：数字でみる港湾2016

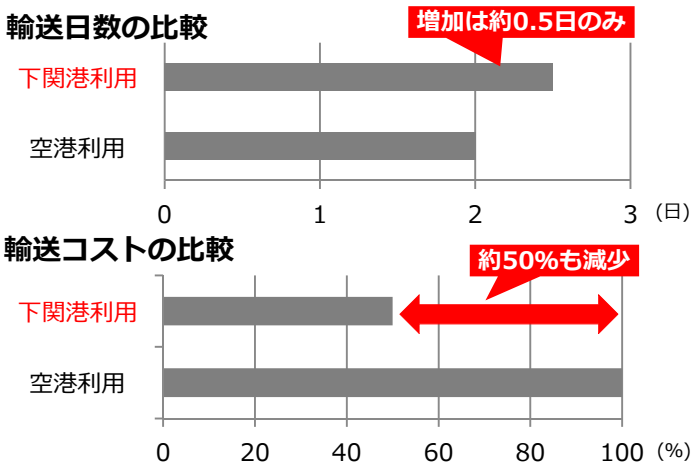
ニーズが高まる国際複合一貫輸送

『複合一貫輸送』とは、普段聞き慣れない言葉ですが、貨物を船舶、鉄道、自動車、飛行機などの種類の異なる2つ以上の輸送手段によって運送することです。この輸送方法は、途中でコンテナの中の荷物を入れ替えることなく目的地まで運ぶことが出来るので、輸送時間の短縮やコストの削減といったメリットがあります。

下関港は、海上輸送のみならず、陸上輸送、鉄道輸送の面から見ても、複合一貫輸送の中継地として利便性の良い場所に位置しており、スピーディーな検査体制により、トラックや鉄道で各地へ運ばれています。

一例として、韓国の馬山から関西へパプリカを輸入する場合、空港（飛行機）利用と下関港（コンテナ船）利用を比較すると、下関港利用は輸送日数が約0.5日の増加で、輸送コストを半分程度に削減して輸送することが可能となります。

韓国（馬山）～関西間の輸送日数と輸送コストの比較



下関港での複合一貫輸送の例

海上交通

国際定期フェリー・RORO航路

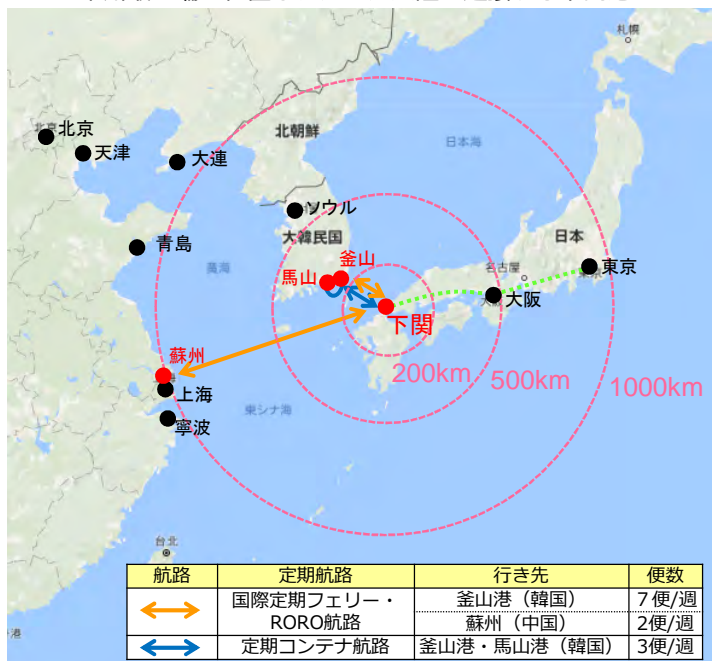
陸上交通

トレーラー
貨物列車

+

定期コンテナ航路

本州最西端に位置し、アジア大陸に近接する下関港



全国から貨物があつまる下関港

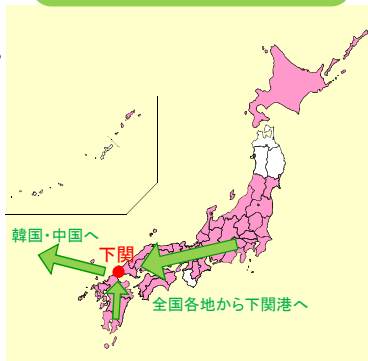
下関港は、日本国内の各地から貨物が集まり輸出され、また、輸入された貨物は下関港を経由して日本国内の各地へ運ばれています。

アジアが近い土地を活かし、輸出、輸入共に貿易相手国としては韓国と中国がほとんどを占めています。

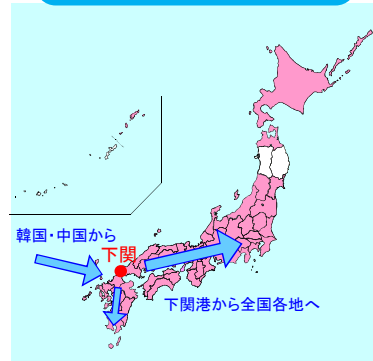
下関港で取り扱っているコンテナ貨物の多くは、産業機械や生鮮食品、電気機械、衣料・日用品の生活用品などです。

特に、野菜・果物として日本に輸入されてくるなす・ピーマン・パプリカは、他港に比べて下関港で多く取り扱われています。

輸出コンテナ貨物の背後圏

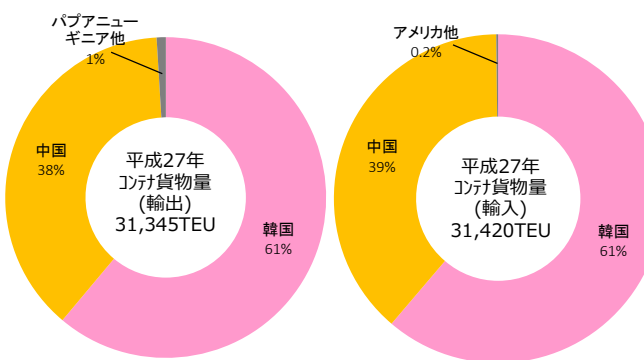


輸入コンテナ貨物の背後圏

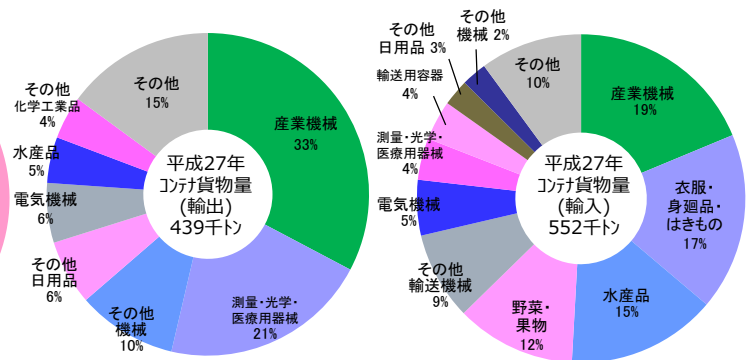


出典：平成25年度 全国輸出入コンテナ貨物流動調査より作成

下関港 輸出入コンテナ貨物の地域別比率（平成27年）



下関港 輸出入コンテナ品目別取扱比率(平成27年)



出典：下関港統計データより作成

長州出島への寄港船の様子

現在、長州出島は韓国の釜山などをつなぐ定期コンテナ船が週3便で就航しているほか、東アフリカ向けに中古自動車を運ぶ自動車運搬船が月2便入港し、さらに不定期で大型クルーズ船も寄港するなど利用の幅を広げています。

長州出島に寄港する船の1日の様子を紹介します。

◆コンテナ船（毎週月・水・木曜日に寄港）

- ・朝7～8時頃に入港
- ・コンテナ貨物の積み卸し作業
- ・正午頃に出港

◆自動車運搬船（毎月半ばと月末に寄港）

- ・朝7時頃に入港
- ・中古自動車の積み込み作業
- ・夕方18時頃に出港

→いくつかの港を経由し約1ヶ月かけて東アフリカの港へ

◆クルーズ船（不定期）

- ・朝7～8時頃に入港
- ・乗客は観光バスで各地に観光やショッピングに出発
- ・特産品販売などのお土産品を購入し乗船
- ・太鼓や踊りなどのイベントによる見送り
- ・夕方17時頃に次の寄港地へ向けて出港

長州出島は、国際物流拠点として、さらに整備を進めています。



釜山・馬山間を結ぶ定期コンテナ船



東アフリカ向けに中古自動車を輸出する自動車運搬船



不定期で寄港する大型クルーズ船



沖合人工島『長州出島』

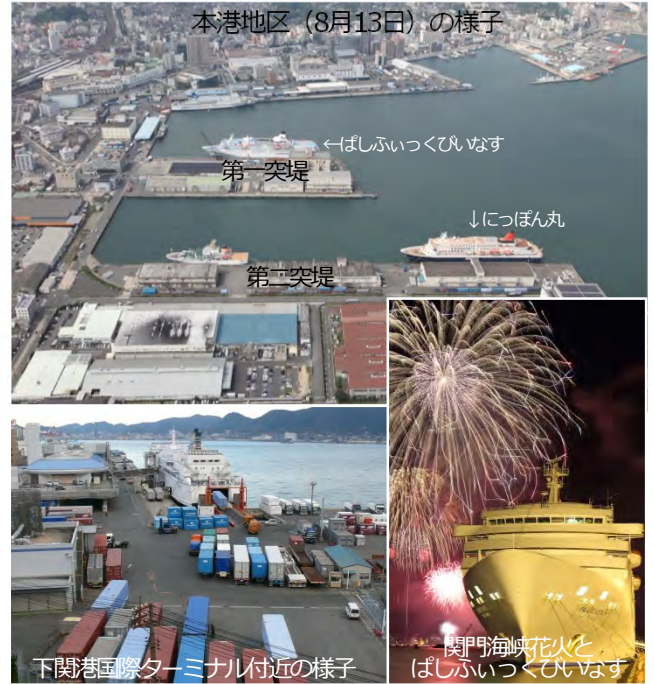
下関港紹介③ 本港地区

本港地区の細江埠頭には下関港国際ターミナルがあり、関釜フェリーが下関港と韓国の釜山間を毎日運航し、隣では蘇州下関フェリーが下関港と中国の蘇州間を週2便運航しています。

また、細江埠頭に隣接した岸壁では、アサリや赤貝などの魚貝類の水産品が取り扱われ、ここで船から卸された水産品が輸送トラックなどで全国各地へ運ばれています。

さらに、第一突堤と第二突堤では貨物を取り扱うほか、クルーズ船も寄港しています。

毎年8月13日には、関門海峡花火大会に合わせてクルーズ船「ぱしふいっくびいなす」（第一突堤）と「にっぽん丸」（第二突堤）が同日に寄港している様子を見ることができます。



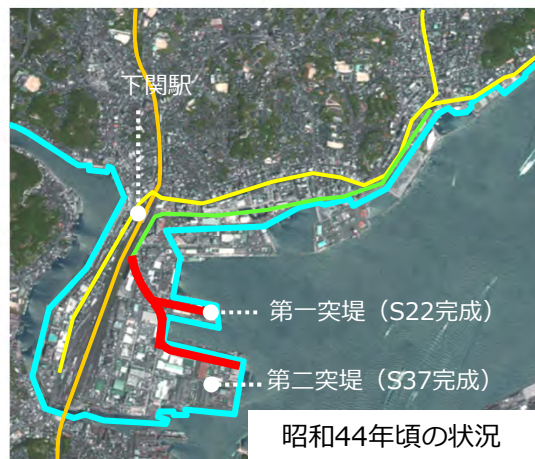
みなと歴史探訪③ 臨港線跡

商業港として栄えつつあった下関では昭和9年に臨港鉄道線が開通し、当時は下関駅と唐戸方面を結ぶものでしたが、本港地区周辺の埋立に伴って臨港線も拡大されました。

その後、第一突堤が昭和22年に第二突堤が昭和37年に完成し、臨港線も各突堤の荷捌き地まで延びていきました。

臨港線は、船舶貨物を運ぶために必要とされ、当時の下関港の物流を支えていました。

現在でも第一突堤と第二突堤付近には、臨港線の跡が残っており、当時の面影を残しています。



「第一突堤」付近の臨港線跡



「第二突堤」付近の臨港線跡



国土交通省 九州地方整備局 下関港湾事務所

〒750-0066 山口県下関市東大和町2丁目29-1
TEL(083)266-3291 FAX(083)261-1123
HPアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/shimonoseki/>

「海と港の総合窓口」
全国共通フリーダイヤル **0120-497-370**

受付時間: 9:30~12:00 & 13:00~17:00 (土・日・祝を除く)

ご意見・ご感想をお聞かせください。

